

## 音楽科 学習指導案

1 対象・日時 1年B組 令和3年2月19日(金) 2校時

2 本題材で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b>①曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。（器楽）</p> <p>②音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。（創作）</p> <p><b>技</b>①創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、器楽で表している。（器楽）</p> <p>②創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題やその条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。（創作）</p>	<p><b>思</b>①音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器楽）</p> <p><b>思</b>②音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（創作）</p>	<p><b>態</b>音色、リズム、テクスチャの違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽と創作の学習活動に取り組もうとしている。（器楽・創作）</p>

3 題材「仲間とつくりあげるリズムアンサンブル」について

本題材は、黒澤吉徳作曲《打楽器のための小品》（一部抜粋）を教材として、リズムや曲想と音楽の構造との関わりを理解し、音の重なりや音色など曲にふさわしい表現を創意工夫して演奏する器楽と、それを基に表したリズムや音素材と音の重なり方などの関わりを理解しながら条件に沿ったリズムアンサンブルを創作する、器楽と創作の関連を図った題材である。コロナ禍で歌うことをはじめとした表現活動が大きく制限されているが、音楽の基礎となるリズムを学習しながら、アンサンブルを仲間とつくりあげる楽しさや、表現の面白さを味わわせたい。また、本授業では、ボディーパーカッションの他、創作時には身近にある物（ペットボトルやラップの芯など）を打楽器として使用し、それらの音色の面白さや、音色による音の重なりの変化や違いにも着目させて、音素材を選ばせていく。素材や打ち方による音色の違いを、実感をもって感じ取りながら、楽譜から豊かな表現を目指し創意工夫していく力や、表現活動により親しんでいける力の育成をねらいとしている。

4 生徒の学びの履歴

休校中の課題や、分散登校期間の校歌の授業を通し、音符や休符についての学習を行った。そして、音符や休符それぞれがもたらす効果について感じ取りながら、4小節間のリズム創作を既習している。また、《魔王》の鑑賞では、楽譜を手立てに表現の意味や自分ならどう表したいかを考えたり、合唱の授業では楽譜からパートの役割について読み取ったりすることなどを学んだ。リズムアンサンブルの演奏では、楽譜を手立てにどのように演奏したいかの思いや意図をもたせ、各声部がどのように重なり合っているか、音楽の構造に目を向けて表現の創意工夫に取り組ませたい。創作では、スモールステップを踏みながら、仲間と協働的に学習することで苦手意識が出ないよう働きかけていくことを大事にする。そして音素材の音色に耳を傾け、《春》で学んだアンサンブルの響きや音の重なりを意識した作品となるよう意識させていく。

5 資質・能力育成のプロセス（6時間扱い）

次 時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1 1   3	<p><b>知</b>①曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。(〇◎)</p> <p><b>思</b>①音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(〇◎)</p> <p><b>技</b>①創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、器楽で表している。(〇◎)</p> <p><b>態</b> 音色、リズム、テクスチャの違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的にリズムアンサンブルの学習活動に取り組もうとしている。(〇)</p>	<p><b>【ワークシートの記述の確認と分析】</b> C：音符、休符のシラブルや音価、音楽記号について教科書等を用い確認させる。また、音を介して音楽の構造の特徴に気付かせたり、プリントにまとめるように促したりする。</p> <p><b>【行動の観察】 【ワークシートの記述の分析】</b> C：感じ取れたことを確認しながらワークシートへの記述を促す。また仲間の意見を丁寧に把握させ、曲へのイメージをもたせるための声かけをする。</p> <p><b>【行動の観察】 【演奏の分析】</b> C：シラブルを楽譜に書かせて歌ったり、拍をカウントしたりしながら演奏するように促す。</p> <p><b>【行動の観察】 【ワークシートの記述の確認】</b> C：繰り返しの取組や、仲間と関わって活動できるよう声かけをしたり、ワークシートへの記述を促したりする。</p>
2 4   6	<p><b>知</b>②音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。(〇◎)</p> <p><b>思</b>②音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(〇◎)</p> <p><b>技</b>②創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題やその条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。(〇◎)</p> <p><b>態</b> 音色、リズム、テクスチャの違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。(〇◎)</p>	<p><b>【行動の観察】 【ワークシートの記述の分析】</b> C：感じ取れたことを一つ一つ確認したり、仲間の意見を丁寧に把握させたりし、ワークシートへの記述を促す。</p> <p><b>【行動の観察】 【ワークシートの記述の分析】</b> C：創作の技法とそれらが生み出す特質や雰囲気を言葉で確認させたり、仲間の意見を丁寧に把握させたりし、ワークシートへの記述を促す。</p> <p><b>【行動の観察】 【作品の分析】</b> C：リズムパターンや音の重なりについて、自分なりに感じ取ったことを言葉にしていくように促す。</p> <p><b>【行動の観察】 【ワークシートの記述の分析】</b> C：繰り返しの取組や、仲間と関わって活動できるよう声かけをしたり、ワークシートへの記述を促したりする。</p>

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムアンサンブルについて知る。</li> <li>・音符や休符など、これまでの学習を振り返る。</li> <li>・授業目標や学習プランを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題1】音楽の構造を理解し、創意工夫を生かしたリズムアンサンブルを演奏しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・《打楽器のための小品》を鑑賞する。</li> <li>・全体で4小節分のリズムを2パート分打ち、重ね合わせた後、班ごとにリズムアンサンブルに取り組む。</li> <li>・楽譜を縦で見たり、模範奏を聴いたりしながら、気付いたことを発表し合い、曲の構造について知る。</li> <li>・各「創作の技法」の特徴やよさを分析し、仲間と意見交換をする。</li> <li>・曲の特徴や強弱、音色の違いを生かした演奏になるよう、班で創意工夫する。</li> <li>・ペア班で演奏を聴き合い、お互いに助言する。</li> <li>・助言を基に班で話し合い、聴き手に伝わる表現の工夫をさらに考え、演奏する。</li> <li>・班ごとに演奏発表を行う。</li> <li>・他の班のよかった点や工夫をまとめていく。</li> <li>・学習の振り返りを行う。</li> <li>・創作の学習についての確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの合唱で学習した「パートの役割」や「各声部の重なり」について確認をする。</li> <li>・身に付けたい資質・能力や学習の流れを確認する。</li> <li>・曲の雰囲気やリズムアンサンブルの面白さを感じ取らせる。</li> <li>・《打楽器のための小品》の冒頭4小節を用い、シラブルを歌いながら既習のリズム創作の復習をする。</li> <li>・特徴を考えさせたい部分に印をつけた楽譜を全体に見せ、自由に意見を発表させる。</li> <li>・反復、拍のリレー、コール&amp;レスポンス（模倣・対照）、ユニゾンの「創作の技法」について伝える。</li> <li>・TPCで演奏を撮り合い、振り返りの中で客観視できるようにしていく。</li> <li>・並び方の工夫にも目を向けさせる。</li> <li>・表現豊かに工夫している仲間の例を紹介し、表現の工夫や思考が深められるよう助言する。</li> <li>・ボディーパーカッションの幅広い表現の面白さや、音の重なりの魅力を感じ取るよう促す。</li> <li>・学習プランを用い、事前に授業の流れやオリジナル打楽器について確認をする。</li> </ul>	1   3
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題2】音素材の音色と創作の技法を生かし、創意工夫したリズムアンサンブルを創作しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作する部分や、約束について確認する。</li> <li>・身近にある物を使用したオリジナル打楽器を、各班で紹介しながら音色を確認する。</li> <li>・音を介し、表現したいイメージや使いたい技法、リズムについて考える。</li> <li>・班で話し合ったり、演奏したりしながら、イメージに合う演奏を創作していく。</li> <li>・創作した部分と規定の楽譜のつながりを確認し、よりよい表現を探求する。</li> <li>・ペア班と中間発表を行い、助言し合う。</li> <li>・助言を基に振り返り、さらに創意工夫を重ねる。</li> <li>・創作した部分を加えて演奏発表する。</li> <li>・作品についての工夫点や解説を個々でまとめる。</li> <li>・学習の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～8小節分の創作を設定する。長くなってしまった場合も可とする。</li> <li>・全体にもいくつかオリジナル楽器を紹介する。</li> <li>・1つ以上技法を使用することを条件とする。</li> <li>・リズムが先行し記譜に困っている場合は、TPCで録音させたり、シラブルを歌ったりし、書けるように支援する。</li> <li>・音と音のつながりも大事なことを意識させ、一つの作品としてつながるように助言する。</li> <li>・TPCで演奏を撮り合い、振り返りの中で客観視できるようにしていく。</li> <li>・各班のTPCで演奏を録画させ、振り返り時に視聴させる。</li> <li>・演奏の評価は行わない。</li> <li>・題材を通して身に付いた力や、表現の豊かさについて、これからの授業との関わりについてなどを振り返らせる。</li> </ul>	4   6

## 6 学びの実現に向けた授業デザイン

### 【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

曲想と音楽の構造との関わりや、リズムや音色、音の重なりから生まれる音楽の面白さ、音楽表現の自由さと豊かさを味わいながら、より豊かな表現を模索している姿。

### 【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

#### ○観点別学習状況のあり方

##### 1. 「知識・技能」の指導と評価

音符や休符の音価や強弱といった基礎知識は、音を介した指導を繰り返すことで、身に付きやすくなっていく。授業への積極的な参加を促していくためにも、経験を基にした知識としてリズムや強弱の学習を丁寧に取り組んでいきたいと考える。そして、それを基に、音楽の構造（今回は反復、模倣、対照、拍のリレー）を学習していく。この時には、視覚と音が一致し、さらに感じ取ったこと（＝「創作の技法」の特徴）と結び付けていけるよう留意し、ワークシート内での記述を評価していく。創作では、「創作の技法」が与える音楽の特徴や音色の特徴、重なった時の響きを意識し、意図的に活用されているかを見取っていく。また、3年間を通して体系的につなげていけるよう意識させていきたい。

##### 2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

表現領域において、どのように表現したいかという思いや意図をもつためには、イメージを湧きあがらせることが肝要である。特に創作においては、「何をしたらよいか」「どうしたらよいか」とつまづいてしまう生徒も少なくない。そこで今回は、リズムアンサンブルの演奏そのものが、創作に向けてのスマールステップの一つとなるような授業展開を図った。まずは演奏活動を通し、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えたり、結び付けたりしていけるようにする。この場面でのワークシートを介してのフィードバック、フィードフォワードを繰り返しながら、様々なアイデアや論理立てて根拠をもった他者への伝え方を身に付けさせたいと考える。次に創作では、「創作の技法」を手掛かりとして、思いや意図をもってリズムを重ね合わせる活動を目指す。演奏活動での経験を生かし、ボディーパーカッションで感じ取った音色の重なりやその面白さに加え、オリジナル楽器を使用し、音色にもより着目させていく。音素材の特徴や音が重なることで生まれる面白さの実感をもたせながらどのように表現したいのかを、根拠をもって仲間に伝えたり書けたりできるよう指導していきたい。

##### 3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

常にパフォーマンス課題となる音楽科授業において、主体的に取り組む態度の評価は、生徒の観察を大事にしながら、認め励ます評価を繰り返していくことが肝要だと考える。直接の声かけ以外にも、ワークシートや授業カード、生徒同士の対話の中での認め励ます評価を繰り返しながら、苦手な生徒に対しても粘り強く取り組む支援を大事にしていく。また本題材では、グループ学習が基本となるため、その中でおとなしい生徒や苦手な生徒が考えたり発言したりする場面を設け、評価につなげていく。生徒同士で、高め合っていける姿を目指したい。

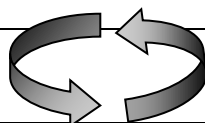
#### ○「考えるための技法」を用いた言語活動の充実

創作においては、表現したいイメージを基にした様々なアイデアを、意見を伝えながら**比較する**活動を設定している。その際に感受したことと知覚したことを**関連付けたり理由付けたり**しながら行うことを意識させることで、より根拠をもった意見となり、言語活動の充実が図られると考える。

#### 【本題材での指導事項】 ※（既習）は既習事項

第1学年 A表現(2)器楽ア、イ(ア)、ウ(イ)及び(3)創作ア、イ(イ)、ウ

〔共通事項〕リズム、音色、テクスチャ



#### 【本題材における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】

- ・身に付けた知識を用いて、既習事項や他教科で学んだ知識と関連付けながら活用していく力や、様々な意見からよりよいものを取捨選択する力、他者に分かりやすく発信したり他者の意見を受信したりする力につながる。